

昌幸の次男として 信繁出生 (1567年) スタート

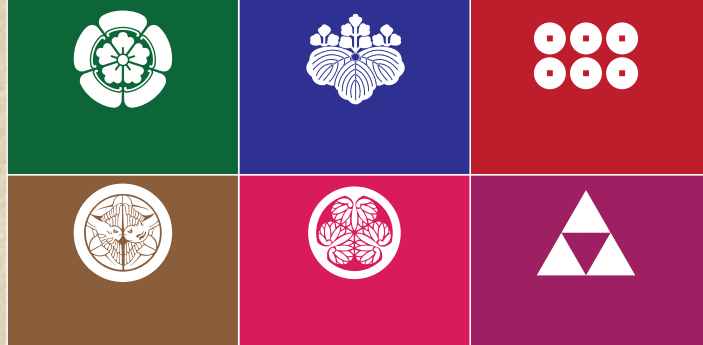
ひのものとつわもの「日本一の兵」と称される ゴール

Timeline of Tokugawa Iyeyasu's Life:

- 1567年:** 昌幸の次男として 信繁出生 (1567年) スタート
- 1573年:** 武田信玄 死去 (1573年) 2つ戻る
- 1574年:** 祖父 幸隆死去 (1574年) ふりだしにもどる
- 1575年:** 長篠の戦い (1575年) 1つ進む
- 1579年:** 沼田城 攻略 (1579年) 2つ進む
- 1582年:** 真田家 生き残り策 展開 (1582年) 1回休み
- 1582年:** 天正壬午の乱 (1582年) 2つ進む
- 1582年:** 本能寺の変 (1582年) 1つ戻る
- 1582年:** 武田家 滅亡 (1582年) 2つ戻る
- 1583年:** 上田城 築城 (1583年) 1回休み
- 1585年:** 信繁 人質として 大坂城へ (1585年) 2つ戻る
- 1585年:** 昌幸 徳川家臣に (1585年) 1回休み
- 1587年:** 沼田領が 北条氏に (1587年) 1つ戻る
- 1587年:** 昌幸 豊臣家臣に (1587年) 1回休み
- 1589年:** 名胡桃城 事件 (1589年) 2つ戻る
- 1590年:** 小田原 征伐 信繁初陣 (1590年) 2つ進む
- 1590年:** 沼田城 奪還 (1590年) 1回休み
- 1591年:** 秀吉 朝鮮出兵 (1591年) 1回休み
- 1594年:** 信繁 結婚 (1594年) 1回休み
- 1594年:** 信繁 [左衛門佐] に叙任 (1594年) 1回休み
- 1598年:** 秀吉 死去 (1598年) 3つ戻る
- 1599年:** 小牧・長久手の戦い (1599年) 2つ進む
- 1600年:** 大坂 冬の陣 (1600年) 1つ進む
- 1600年:** 信繁 最後の戦い (1600年) 1つ進む
- 1600年:** 大坂 夏の陣 (1600年) 2つ進む
- 1600年:** 九度山 配流 (1600年) 1つ戻る
- 1600年:** 関ヶ原の戦い (1600年) 3つ進む
- 1600年:** 第二次 上田合戦 (1600年) 2つ進む
- 1600年:** 犬伏の別れ (1600年) 1つ戻る
- 1601年:** 昌幸 九度山 にて病死 (1601年) 1つ戻る
- 1611年:** 信繁 大坂入城 (1611年) 2回休み
- 1614年:** 大坂 冬の陣 (1614年) 1つ進む
- 1615年:** 信繁 最後の戦い (1615年) 1つ進む
- 1616年:** 大坂 夏の陣 (1616年) 2つ進む

真田信繁[幸村]関係 略年表

年	内 容
1567年	信繁(幸村)誕生
1573年	祖父・幸隆から仕えた武田信玄死去
1574年	祖父・幸隆死去
1575年	長篠の戦い(武田vs織田・徳川) (父・昌幸が真田家家督相続)
1579年	昌幸・沼田城攻略
1582年	武田家滅亡(真田家は織田信長の家臣に) 本能寺の変(織田信長死去) 天正壬午の乱(旧武田領を巡る争奪戦)
	真田家生き残りの策 (昌幸は上杉・北条・徳川へと臣属先を転々とする)
1583年	上田城の築城開始 (徳川の支援・協力で大工事を完成)
1584年	小牧・長久手の戦い(羽柴vs徳川・織田) (沼田・吾妻・小県を真田領として掌握)
1585年	信繁、人質として越後・春日山城へ 第一次上田合戦 (徳川7,000の兵を真田2,000の兵で応戦・撃退)
	信繁、人質として大坂城へ 昌幸、徳川の家臣に(秀吉の命令)
1587年	昌幸、正式に豊臣家臣となる 沼田領が北条氏に(秀吉の裁定)
1589年	名胡桃城事件 (北条氏直家臣が真田領名胡桃を攻略)
1590年	小田原征伐(秀吉が北条氏直を討つ) 信繁の初陣 沼田領が再び真田家のものに (兄・信幸が沼田城主)
1591年	秀吉・朝鮮半島に出陣
1594年	信繁、「左衛門佐」に叙任(豊臣姓を下賜) 信繁が結婚 (妻は秀吉の重臣・大谷吉継の娘[竹林院])
1598年	秀吉死去
1600年	犬伏の別れ (昌幸・信繁は豊臣方、信幸は徳川方へ) 第二次上田合戦 (昌幸・信繁、関ヶ原に向かう徳川秀忠軍を上田城で足止) 関ヶ原の戦い(徳川方が勝利) 昌幸・信繁、九度山へ配流(上田城破却)
1611年	昌幸、九度山で病死
1612年	信繁、出家(「好白」と名乗る)
1614年	信繁、子の大助とともに大坂入城 (「真田丸」を築く) 大坂冬の陣(真田丸の戦い:鉄砲隊が徳川先鋒隊に大打撃)
1615年	大坂夏の陣 (道明寺の戦い:伊達政宗隊の先鋒を銃撃戦で一時的に後退させた) 信繁・最後の戦い (真っ正面から真一文字に家康本陣に攻め込む。信繁・討死) 後年、信繁の勇猛ぶりに、 「日本一の兵」と讃えられる。



真田信繁[幸村] (1567-1615年)



上田市立博物館蔵

父・昌幸の次男として出生。徳川家・上杉家での人質生活の後、関ヶ原の戦では、昌幸とともに豊臣秀吉に仕え、西軍に参加した(兄・信幸は徳川方[東軍]へ)。

関ヶ原の戦で敗れた昌幸・信繁は、配流先の和歌山県九度山町で生活。昌幸は配流先で生涯を終えた。

その後、豊臣秀頼からの誘いにより、息子・幸昌(大助)とともに大坂入城。大坂城玉造口の外に出城「真田丸」を築き、大坂冬の陣では鉄砲隊を率いて、徳川軍を翻弄し大打撃を与えた。大坂夏の陣では、徳川家康の本陣に攻め込み馬印を倒す。安居神社(大阪市天王寺区)の境内で、傷ついた身体を休ませていたところ、越前軍鉄砲組頭の西尾仁左衛門に発見され、「わしの首を手柄にされよ」と最後の言葉を残して討ち取られた(49歳)。

真田家家系図(略図)

